


大学での大学情報に関するデータベースの  
構築状況 - 評価研究部公開研究会  
「大学情報データベースの構築と将来展望」から -

喜多一

京都大学 学術情報メディアセンター

公開研究会「大学情報データベースの構  
築の将来展望 - 経験の共有と交流 - 」

- 2003年1月29日(水)国立オリンピック記念青少年総合センター
- <プログラム>
  - 挨拶・趣旨説明 NIAD 荒船 次郎 副機構長
  - 「大阪大学における基礎データ収集と評価」  
大阪大学大学院薬学研究科 馬場 明道 教授
  - 「徳島大学における教職員データベースの構築と運用」  
徳島大学高度情報化基盤センター 上田 哲史 助教授
  - 「SOSEKIの軌跡」  
熊本大学教育学部 塚本 光夫 助教授
  - 「欧米の大学情報データの事情と日本の可能性」  
東京大学 大学総合教育研究センター 小林 雅之 助教授
  - 「大学情報と大学情報データベース」 NIAD 喜多 一 教授
  - 質疑応答・討論
  - 「閉会の挨拶」 NIAD 川口昭彦 教授



## 公開研究会「大学情報データベースの構築 の将来展望 - 経験の共有と交流 - 」

- 積極的な取組をしている大学の事例紹介
  - 大阪大学, 徳島大学, 熊本大学
- 海外での国レベルでの大学統計情報の事情の紹介
  - 小林氏: オーストラリア, アメリカ合衆国, イギリス
- 大学評価のための大学情報データベースに関する課題の整理
  - 喜多

当日の資料は NIAD-UE の Web サイトで公開

<http://www.niad.ac.jp/info/kenkyukai.pdf>



## 大阪大学の事例(1)

- 大阪大学
  - 10学部, 14研究科
  - 学生総数約 20,000 名, 教員総数約 2,400 名
- 事例: 基礎データの収集
  - 背景と目的
    - 大学の自己点検評価, NIAD-UE による大学評価の経験
    - 評価のための基礎データを収集
    - 大学の教学活動の社会への説明のための基礎資料



## 大阪大学の事例(2)

---

- 体制
  - 担当組織「データ管理分析室」を設置
- データの構成: 詳細なデータの検討
  - 全学基礎データ
    - 部局のアクティビティ, 事務等を通じて集積, 文書情報
  - 教官基礎データ
    - 個々の教官の公的アクティビティ
    - 個々の教官が入力
    - 研究業績データは社会に公開



## 大阪大学の事例(3)

---

- システム
  - Web ベースの GUI を持つデータベース
  - 全学の教官が入力
  - 全学基礎データは文書情報も蓄積



## 徳島大学の事例(1)

- 徳島大学
  - 5学部, 6研究科
  - 学生総数約 7,400 名, 教員総数約 900 名
- 事例:工学部におけるEDBの構築と全学展開
  - 背景と目的
    - 大学からの情報発信のための各種出版物の効率的な編集のためのデータベース
    - 情報の電子化により一回の入力で多様な利用
  - 体制
    - 情報系の教員による作業グループ+ 専門技術員



## 徳島大学の事例(2)

- データのモデル化
  - 参照形式の導入により「現実世界の事柄1つに対してDB上も1つの情報で表現」
  - 作業の履歴を保存し信頼性を向上
- システム
  - Web ベースのデータベースシステム
  - フリーソフトを中心に構成, 内作により低コストで実現
  - リレーショナルデータベースと XML の併用, Unicode の採用など新しいシーズでニーズに機動的に対応
  - 印刷物の組版まで一貫化



## 徳島大学の事例(3)

- 大学評価への対応
  - NIAD-UEの平成13年度着手, 分野別研究評価, 工学系での教員からの情報収集に活用し, 自己評価を支援
- 全学への展開



## 熊本大学の事例(1)

- 熊本大学
  - 7学部, 7研究科
  - 学生総数約 10,000 名, 教員総数約 1,000 名
- 全学的学務情報システム SOSEKI
  - 目的
    - 履修登録や成績の入力, 参照などを直接, 学生や教員が行える Web ベースのデータベースシステム
    - ユーザの利便性の向上, 業務の効率化
  - 経緯
    - 平成 11 年度に導入, 4年以上の運用経験



## 熊本大学の事例(2)

### ■ 成果

- **全学の学生, 教職員が実際に操作できる。**
  - そのためのシステム構築, 教育, 運用ノウハウ
  - 全学の構成員が利用できるという強力な情報基盤
- **新しい情報サービスを次々に展開**
  - 教育の質の向上を支援



## シンポジウムの意義

- これらの取組は相互にあまり知られていない。
- 経験やノウハウの共有は重要
- 参加者: 162名(NIAD-UEを除く)
  - 機関別: 国立大, 共同利用機関 89, 公立大 1, 自治体 1, 企業 1
- アンケート: 回収 126 通
  - たいへん参考になった: 約 6 割
  - 参考になった: 約 4 割
  - データベース構築の必要性の認識
  - 情報の不足
    - 何をなすべきか, どのように行うか, 課題と解決は?